

若竹ミュージカル

『屋根の上のヴァイオリン弾き』

ハイライト版



東京学芸大学附属特別支援学校
卒業生・家族・教員、支援者
若竹ミュージカルオーケストラ
指揮：広井 隆

屋根の上のヴァイオリン弾き

FIDDLER ON THE ROOF

based on Sholem Aleichem stories by special permission of Arnold Perl

Book by JOSEPH STEIN

Music by JERRY BOCK

Lyrics by SHELDON HARNICK

Production on the New York Stage by Harold Prince

Original New York Stage Production Directed and Choreographed
by JEROME ROBBINS

Mr. Robbins' Original Direction and Choreography Reproduced by
WAKATAKE MUSICAL

訳：倉橋健

台本・演出：若竹ミュージカル演出部

FIDDLER ON THE ROOF

Is presented through special arrangement with Music Theatre International (MTI).

All authorized performance materials are also supplied by MTI.

421 West 54th Street, New York, NY 10019

Phone: 212-541-4684 Fax: 212-397-4684

www.MTIShows.com



東京学芸大学附属特別支援学校

卒業生・家族・教員、支援者

若竹ミュージカルオーケストラ

指揮：広井 隆

2008年11月2日（日）

開場：13：00

開演：14：00

会場：東京学芸大学芸術館

小金井祭の指定席へようこそ「若竹ミュージカルご一同様」「観客の皆様」

東京学芸大学運営参事 平井文香

深まりゆく秋 毎年、芸術館は「元気館」と改名し、「またきます」「友達を誘います」と帰られたリピーターの方々と多くの新しいお客様をお迎え致します。

幕のない舞台はお客様一人ひとりの心と耳で開幕をしてください。熱く感動的で思わず時間を忘れてしまう世界の開始です。心地よい音、ゆるやかで穏やかな空間に今にも消え入りそうな音や、衝突し傷つきそうな危うい音や、ありあまる挑戦的な音と天の星に届かんばかりの音たちが舞台へお客様の視線と心を引きつけて放さない魔法をかけてくるのです。ここで「音」としてしましたのは、若竹ミュージカルの練習光景を何年も見続けてきた私の思いからです。今日の舞台で「せりふ・歌・歌詞」が十分に聞きとれない事があるかも知れません。ここから魔法の種明かしかもしれませんが、「舞台上で表現したことがすべて」と言い切れる背景があります。それは、ミュージカルがスタートした当時、指揮者の広井先生は「この人達にこれ以上の表現は無理だ」とご自身の基準を持っていたそうです。ある日、「先生もっと私たちに厳しくしてください」「これではだめです」と卒業生本人の訴えに、広井先生が、仲間達の本気を受け止め、妥協をしない表現を追求していくおもいをさらに重要視したことによって、せりふや歌・歌詞を極めていく葛藤の道程で成長した心です。皆様の耳に届いた音にその心が重なっていることに気づかれるはず

15年間を歩んできた若竹ミュージカルの魅力は「思いやる心＝愛」を家族の中で、仲間や支援者に、そして母校にたいしてはぐくんできたことと、自分自身の悩み、家族の病気や事故、仲間の死、職場でのトラブルを仲間と共に乗り越えてきた品格のある大人の集団であることです。

今年も「音楽を愛する文化の担い手」の仲間の皆様とお客様を東京学芸大学の大切な宝として小金井祭の指定席にご招待させていただきます。どうか、今日も元気館に入場されたお客様は魔法にかかって、「若竹ミュージカルの世界」を、お楽しみください。

われらが誇る「若竹ミュージカル」

東京学芸大学附属特別支援学校長 朝倉隆司

今年も小金井祭の季節がやってきました。小金井祭では、毎年若竹ミュージカルがその年の練習の成果を発表しています。今年も演目が披露されるのは喜ばしい限りです。ご存じの方も多いと思いますが、若竹ミュージカルは、すでに10年以上の歴史を持っており、東京学芸大学附属特別支援学校が世界に誇れるものの一つです。レパートリーは、『サウンド・オブ・ミュージック』『ウエスト・サイド・ストーリー』『屋根の上のヴァイオリン弾き』がありますが、今回は『屋根の上のヴァイオリン弾き』が演じられます。「こんな難しいテーマのミュージカルを」、私ならずとも思ってしまうのではないのでしょうか。この演目が選ばれた経緯と練習中のエピソードが「僕たちのブロードウェイ」（若竹ミュージカル編著、工藤傑史監修、晩成書房）に書かれています。

キャスティングを決める際のさまざまな駆け引き。同じシーンで繰り返し注意を受けながら、うまく動けない演技者に向けられた親たちからの苛立ちの声。役がついてせつかく台詞の練習を

していたのに、役を変えられてしまった者。せっかくのひと言のセリフが、かぶって飛んでしまった者。休みを割いて練習にきたのに、セリフが少なくて出番がなく、待ちばかりという不満の声。若竹ミュージカルは、ありがちな表面的に纏った平等主義の配役ではないために、緊張と葛藤、悩みや不満が、この作品が仕上がるまで、彼らの心の中に渦巻いていただろうと想像できます。このようなたくさんの汗と涙や悔しさ、葛藤が、彼らの演技や作品に一層の輝き与えているのだらうと思わざるを得ません。彼らが行ったたくさんの「心の作業」こそが、感動の源なのではないかと思うのです。きっと、スタッフや保護者の方々は、辛抱強くその作業を見守って、つきあってこられたのだらうなと想像します。結果、なれ合いや妥協のない「本物」ができあがったのでしょう。

指揮をしてくださっている広井隆先生と若竹ミュージカルオーケストラの皆さんにも、感謝です。

「若竹村の皆の衆」と集える喜びをかみしめて

若竹ミュージカル代表 工藤傑史
(東京学芸大学附属特別支援学校)

本日は、若竹ミュージカル公演『屋根の上のヴァイオリン弾き』（ハイライト版）にご来場いただきありがとうございます。

舞台はオーストリアのザルツブルクから再びロシアの寒村アナテフカ村へ…。昨年夏と秋に東京と長崎で『サウンド・オブ・ミュージック』を打ち上げ、今回の演目は『屋根の上のヴァイオリン弾き』の3年ぶりの再演です。

活動を始めて今年で16年目を迎える私たちですが、長く続けてくると、それなりにみんなが歳を重ね、登場人物の実年齢に近づくという意味でも、一緒に過ごしてきた時間の長さやその関係の深さという意味でも、この作品に登場するアナテフカ村に住むユダヤ人たちと重なるところがあり、なぜか居心地がよくなってから不思議です。ついアナテフカ村ならぬ「若竹村の皆の衆」と呼んでしまう所以です。

さて、ハイライト版とした今回の公演では、ほぼ全員が前回とは違う新しい配役にチャレンジし、出番が多い役（テヴィエ役ほか）は、場面ごとに役を交替し（ダブルキャスト）出演しています。

配役の入れ替えは、常に新しい気持ちで作品と向き合いたいというのが表向きの理由ですが、それ以上に、立場を替えることで違う世界が見えてきたり、相手役の気持ちがわかってきたり、また、それぞれが表現者としての自分の新しい可能性を発見することを目標にしてきました。進化を続けるメンバーたちの姿を見て頂きたいと思います。

「陽は昇り、また沈み、時うつる…、よろこび 悲しみをのせて流れゆく」の歌詞で歌われる名曲「サンライズ・サンセット」が、またテーマソングになりましたが、私たちはこの公演をまた特別な思いで迎えました。昨年暮れに、メンバー中でも一番の元気者で、これまで『ウエスト・サイド・ストーリー』のマリア役や、『サウンド・オブ・ミュージック』のグレーテル役、昨年のこの小金井祭公演ではひつじ役を熱演したユリちゃんこと近藤由里さんとの別れがありました。今日は若竹村の大切な仲間だったユリちゃんの方まで力一杯歌いたいと思います。

プログラム構成・曲の紹介

プロローグ

帝政の頃のロシア、アナテフカ村に住むユダヤ人テヴィエは、妻ゴールデと5人の娘と暮らす貧しいがユダヤのしきたりを重んじて暮らす牛乳屋。

♪しきたりの歌 (Tradition) -テヴィエと村人たち-

テヴィエの口上「屋根の上のヴァイオリン弾き…。飯の食い方、眠り方…。ここアナテフカ村には何ごとにも“しきたり”がある。」と、ユダヤ人がこの村で守ってきたことを歌う。そして、アナテフカ村に住むいろいろな人が登場する。

第1場 テヴィエの家の台所

お年頃の娘たちにとっての最大の関心事は結婚。仲人ばあさんイエンテが持ってくる縁談は…。

♪すてきな人をみつけてね (Matchmaker) -ツァイテル・ホーテル・チャヴァー-

「すてきな人を！」「お金持ちを！」と、次女ホーテルと三女チャヴァーが自分たちの理想を歌う。しかし長女ツァイテルは「お金も財産もない私たちは我慢だけ…」とイエンテになって二人を諭す。

第2場 テヴィエの家の中

ユダヤ教の教えに則り、金曜日の落陽から土曜日の落陽までは家族の聖なる「安息日」。村中それぞれの家族で、ここテヴィエの家でも家族で祈り、歌う。

♪安息日の祈り (Sabbath Prayer) -テヴィエの家族と村人たち-

「お恵みを神様、娘らの上に。そしてわしら家族に、今までと変わらぬ幸せと平和を…。アーメン。」

第3場 居酒屋

居酒屋でテヴィエは、肉屋のラザールに「あんたの娘のツァイテルが好きなんだよ。」と結婚を申し込まれ、最初はびっくりしたテヴィエも、その内に娘との結婚を承諾。二人で結婚の成立を祝って歌う。

♪人生に乾杯 (To Life) -テヴィエとラザール、居酒屋に集う村人達-

「縁談の成立、一族の繁栄、健康と幸福、そうさ To Life!」居酒屋に集まったみんなで歌い、そして踊る。普段は付き合うことのないロシア人も、お祝いということでユダヤ人と一緒になって歌い、踊る。

b To Life-Dance ロシアとユダヤの踊りの競演 -ロシア人とユダヤ人の踊り-

ロシア人に誘われてテヴィエが踊り出す。ロシアとユダヤの旋律やリズムが交差し、重なり、次第に曲を盛り上げていく。

最後は双方入り乱れて踊り、ロシア人ユダヤ人が一緒になって「To Life(乾杯)！」

くところが、長女ツァイテルには相思相愛の仕立て屋モートルがいる。「しがない仕立て屋だっって幸福になる権利はありますよ。」という勇気あるモートルのことばと「お互いに好きあっている。」ということに動かされ、テヴィエは、二人の結婚を許すことにした。>

そしてゴールデを説得して、いよいよ二人の結婚式。

第4場 結婚式

今日はモートルとツァイテルの結婚式。しきたりに則って、村人達が総出で祝い、歌う。

♪陽は昇りまた沈む (Sunrise Sunset) -テヴィエ・ゴールデ、ホーテル・チャヴァー、村人達-

「あの子がこんなに立派になって・・・」と二人の幸せを願い、感慨深く歌うテヴィエとゴールデ。二人の晴れ姿に自分たちの将来を重ねて歌うパーチックとホーデル。

♪ビンのダンス (Bottle Dance) -村人ボトルダンスの人-

クラリネットの音色と共にワインボトルを頭上に掲げ、男達が勇壮なお祝いのダンス「ボトルダンス」を踊る。

お祝いの品物の披露など“しきたり”通りに進む結婚式。「約束した。乾杯した。くだらない」と、愛するもの同士が結婚したんだと主張するパーチックは、意中の人ホーデルにダンスを申し込む。大騒ぎの中、「男と女が踊ってはならん・・・とは書いておらんなあ。」というラビ様のことはに力を得て、踊り出す。

♪結婚式の踊り (Wedding Dance) -パ・チック・ホーデル、テヴィエ一家、ラビ様、村人達

ラビ様までが踊り出したのを見て、村人達も男女で一緒に手を取り合って踊り始める。

人々が楽しく踊っているところへ、ロシア人巡査部長が部下とともにやってきて会場をメチャメチャにして「テヴィエ、すまん。命令なんだ。」と告げて去る。

残されたテヴィエ一家は茫然自失…。

第5場 テヴィエの家の外

結婚を誓い合ったホーデルとパーチックは、テヴィエに祝福してほしいと願い出る。テヴィエは「しきたりと違う。すぐにも遠くに行ってしまうパーチックだ・・・」と自問自答するが、「二人は愛し合っている・・・」と意を決して二人に祝福を与える。

♪すべてが今はこの手に (Now I Have Everything) -パーチックとホーデル-

結婚を誓い合った二人。「この世の荒波を超え、君とただ二人・・・」とパーチックが歌えば「愛する人をここで待っていた・・・」とホーデルが歌う。

♪愛してるかい? (Do You Love Me?) -テヴィエとゴールデ-

二人の愛を重ねて、ゴールデとの愛を問うテヴィエ。「今さら・・・」と思いつつ、愛していることに気がつくテヴィエとゴールデ。

第6場 鉄道駅の外

遠いシベリアに大事な仕事のために行き、刑務所に入ったパーチックを追って旅立つホーデル。見送りにきたテヴィエにホーデルが歌う。

♪愛する我が家を離れて (Far From The Home I Love) -ホーデル-

「シベリア? そんな遠くへ・・・どうして? ホーデル。」と問うテヴィエに「パパ、わかってほしいの。」と悲しくも決意に満ちた歌を歌う。

第7場 テヴィエの家の前

ますますユダヤ人への命令が厳しくなってきた。「この村を立ち退くように。三日間だぞ。」という巡査部長の命令に村人達は歌う。

♪アナテフカ (Anatevka) -アナテフカ村の人々-

「たった一枚の紙切れで生まれた土地を追い出されるなんて・・・。」住みなれたこのアナテフカ村を立ち去らねばならない切ない思いと不安。そして未来への願いを込めて・・・。

注) ♪ <<歌>> -歌う人-
♫ <<踊りの曲>>

(演出部：三輪禎子、山本正子)

キャスト紹介

相磯 君絵 (村人)	小島 諭 (ロシア人)	谷山 洋子 (村人)
相磯 岳史 (ヴァイオリン弾き)	小林 憲治 (村人)	津田 愛子 (村人)
安東 恵美 (ツアイトル・村人)	小林 美保 (村人)	津田 淳子 (村人)
伊藤 公一 (テヴィエ・村人)	小林 竜一 (巡査部長・ロシア人)	坪上 義子 (村人)
伊藤 敬子 (村人)	近藤 さと子 (イエンテ)	戸谷 さほ (村人・ シュプリンツェ)
上田 徹 (村人)	近藤 由紀子 (村人)	戸谷好秀 (村人)
植田 久 (ラザール)	坂井 照子 (村人)	戸田 尚幸 (ロシア人)
大野 優子 (村人)	坂井 智明 (パーチック・村人)	戸田 玲子 (村人)
小田知希 (ロシア人テノール歌手)	佐藤 佳代 (チャヴァ・村人)	長田 翔平 (村人)
小野寺 邦江 (村人)	清水 志保子 (村人・ツアイトル)	橋本 明子 (村人)
小野寺 恵江 (村人)	清水 美恵子 (村人)	福井 滉 (村人)
河西 正子 (村人)	白川 博子 (村人)	福井 晴美 (村人)
河西 美保子 (村人・チャヴァ)	白川 優子 (村人)	藤江 真二郎 (ロシア人)
春日 貴代志 (村人・モートル)	鈴木 文雄 (村人)	藤江 もと子 (村人)
加藤 富美子 (村人)	鈴木 真奈 (ゴールデ)	三輪 禎子 (村人)
上林 やよい (ホーデル・村人)	鈴木 裕一 (村人)	盛生 桂子 (村人)
木村 智子 (村人・ホーデル)	清野 友規 (村人)	盛生 正子 (村人)
工藤 傑史 (村人・パーチック)	清野 三千子 (村人)	行友 宏文 (ラビ)
栗山 和宏 (村人・テヴィエ)	田口 雅之 (ナフム・村人)	
小島 訓子 (村人)	谷山 いづみ (村人)	

若竹ミュージカルオーケストラ紹介

指揮者：広井 隆

赤澤 秀行 (Trp)	多奈田 紗彩 (Vn)	
飯島 友香里 (Hr)	谷口 良二 (Trb・Acd)	
(石井 温子) (Cb)	戸邊 安代 (Trb)	
井上 理沙 (Cb)	鳴瀬 絵理 (Cl)	Vn : ヴァイオリン
大串 清文 (Cb)	鳴瀬 潤 (Cl)	Va : ヴィオラ
大串 千代 (Vn)	西田 みゆき (Hr)	Vc : チェロ
大野 晴子 (Vn)	淵本 晶子 (Vn)	Cb : コントラバス
岡部 純子 (Va)	正月 宏和 (Perc)	Fl : フルート
小澤 晃子 (Fl)	松山 桂子 (Trp)	Ob : オーボエ
小澤 耕平 (Ob)	水本 肇 (Va)	Cl : クラリネット
小松 拓巳 (Va)	宮崎 瑠美 (Vn)	Fg : ファゴット
佐藤 寛治 (Fg)	村木 舞子 (Vn)	Hr : ホルン
佐藤 玲子 (Fl)	森永 佳代 (Vn)	Trp : トランペット
島田 栄子 (Vc)	矢浪 陽子 (Perc)	Trb : トロンボーン
高瀬 薫 (Vc)	山本 正子 (Key)	Tuba : チューバ
田澤 則人 (Vc)	(吉田 久恵) (Perc)	Perc : パーカッション
立山 直子 (Piano)	鷲頭 まり子 (Vc)	Key : キーボード
		Piano : ピアノ
		Acd : アコーディオン

() 付きは今回出演しない仲間

スタッフ紹介

相磯 嘉雄
安東 恵美
市原 一宏
伊藤 敬子
伊藤 正典
植田 京子
植田 千代子
上田 恭子
大串 清文
大野 優子
河西 正子
春日 三枝子
加藤 富美子
木村 希代子
工藤 傑史
栗山 和枝
越川 徹郎
小島 詔
小島 訓子

小島 謙太郎
小林 幸子
小林 春江
小林 美沙子
近藤 和子
近藤 由紀子
坂井 照子
佐藤 順子
清水 美恵子
鈴樹 勝子
鈴木 文雄
清野 賢司
高野 裕美
高橋 佳子
高橋 由佳
田口 みどり
立山 直子
谷口 良二
津田 淳子
津田 由夫

坪上 礼子
長田 菜穂美
橋本 明子
平沢 直子
平野 亜紀
藤江 もと子
三輪 禎子
山本 正子
行友 喜代子
東京学芸大学

表現コミュニケーション専攻
(村松希美, 蒲英里子, 黒田可菜,
岡見達也, 水越絵梨子, 齊藤礼華)
出口研究室の皆さん
橋本研究室の皆さん



広井 隆 (指揮者)

東京芸術大学指揮科卒業

三石 精一、金子 登、エルヴィンボルン、渡辺 暁雄、山田一雄諸氏に師事。1974年、安宅賞受賞、日本指揮者協会会員、日本演奏連盟会員。

1992年より、東京学芸大学附属養護学校に於ける東京学芸大学管弦楽団「音楽教室」で指揮を執られ、児童、生徒、保護者より絶大な信頼をよせられている。

1996年より、『ウェスト・サイド・ストーリー』、『サウンド・オブ・ミュージック』、『屋根の上のヴァイオリン弾き』で若竹ミュージカルの指揮ならびに指導をいただいている。

2007・8・19 長崎公演

総勢 130 余名で長崎へ入りました



当日のプログラム



公演会場の「長崎ブリックホール」

どれみコーラス（長崎大学付属特別支援学校）との交流



前日、お互いのドレミの歌を歌い合いました



1,500 名を超えるお客様でした



『サウンド・オブ・ミュージック』最後のシーン
“すべての山にのぼれ”

公演後メンバーはそれぞれのグループに分かれて長崎・九州をエンジョイしました



黒崎カトリック教会の前で



阿蘇外輪山にて

練習点描



全員村人になってウォーキング、ウォーキング

まずは基本練習から！



ストレッチも大切なエクササイズです



「屋根の上のヴァイオリン弾き」ハイライト版公演に向け「がんばるぞ！」



ラビ様とチャヴァ・シュプリンツェのダンス



ユダヤ人のデヴィエがロシア人と娘の婚約を祝って・・・



♪安息日の祈りを歌う敬虔なユダヤ教のデヴィエ一家と村人たち



9月からオーケストラと合同練習開始

Viva 若竹ミュージカル!

Part VII

『屋根の上のヴァイオリン弾き』に魅せられて

13回 津田愛子・淳子

ひとむかし前ほど、森繁久彌名優の演ずる『屋根の上のヴァイオリン弾き』を観てすごく感動したものです。そのとき、まったく考えもつかなかった『屋根の上のヴァイオリン弾き』を若竹ミュージカルで、ほんの一部でも公演に参加することができ夢のようです。もちろん『屋根の上のヴァイオリン弾き』のめざす理念や倫理観、民族感情等理解できませんが、つづけて公演の仲間に入れていただき、何を表現したいのか、何を大衆に訴えたいのか模索中ですが、何となく『屋根の上のヴァイオリン弾き』の「心」みたいなものを感じるようになった気がしています。これからも楽しみながら努力していきたいと思っています。皆様ご支援くださいますようお願いいたします。

18回卒 坪上義子

今度の公演は『屋根の上のヴァイオリン弾き』です。私は村人で、しきたりがわかるようにやりたいと思っています。はいやくはかわって、どんなぶたいができるか、私も楽しみです。

「再演を前に」

坪上礼子

二十二年間勤めた会社が倒産し、一から企業でやり直すのは辛いからとのことで、福祉作業所に入りました。一つ目の所は、閉鎖・合併され、二つ目の所では、同性のいじめがあって耐えられず、今、三つ目の所に通っています。(同じ法人ではあります)親子二人共、相当疲れてしまい、「今年一年、ミュージカルをやすんでは？」と提案したのですが、本人が「行くだけでいいから」と申しますので、参加させて頂きました。この活動が、どんなに本人の支えになっており、どんなに大切なものなのか、改めて感じております。

「今年のミュージカルについて思っていること」

21回卒 植田 久

11月の小金井公演が近づいてきた。只今追い込みの練習中です。私は肉屋のラザールに決まった。以前は5人娘の父親役デヴィエだった。今回のラザールは

デヴィエの友人で少し若者役。いきなり長女のツイテルを好きになってしまう。ひょうきんというか、少しかれたおもしろい男で、まじめなぼくとしては、表現が中々むずかしいです。選んでくれたみんなのことをうらぎらないように、役に徹したいと思ってがんばっています。

「忘れることが出来ません」

植田千代子

再度の『屋根の上のヴァイオリン弾き』公演とあって忘れられない静岡公演直前からの入院騒動、急性肺炎も点滴を1週間続けて頂いて取り敢えず落ちついたところで、静岡公演を打ち明け(充分、無茶な申し出とわかりつつ)外泊許可を主治医の御理解で頂き、静岡で万が一わるくなった折、訪院すべく紹介状も出して下さり、こんなに理解して下さるお医者様にお出逢い出来たこと、神様に守って頂いたおもいでした。案の定、長距離の車での疲れと緊張から再度発熱、静岡のスタッフの方々のお世話で病院へ、母子で点滴を受けるやら、でも舞台の方は何とか全幕を倒れずに演じ切ってくれたあとは力が脱けた思いでした。先生方、皆さんにも、ハラハラのおもいをさせてしまい本当に申し訳ないことでした。今となっては、なつかしさも加わった、胸の痛くなる様な大きな大きな思い出となりましたが……。健康あってこそその若竹ミュージカル、大切にしましょう。

「もう一回やるのだからもっと上手になりたいです」

25回卒 小林竜一

前のビデオを見て歌と踊りまた新しい場面があるので、勉強しています。ラザールの時、緊張して足が動かなかったのが、今度は巡查部長になって失敗しないように練習しています。前はテーブルを壊すところが、かっこよかったので、今度は僕が壊す役をやります。壊すところをどならないで「3日以内だぞ」としっかり言いたいです。

小林美沙子

芸術館での公演は、もう10数回になります。毎年小金井祭で公演できる幸せを改めて感謝し、また毎回

注：Viva 若竹ミュージカル Part I は 97 年公演プログラムに、Part II は 2001 年公演プログラム、Part III は 2005 年公演プログラム、Part IV は 2006 年東久留米公演プログラム、Part V は 2006 年公演プログラム、Part VII は 2007 年公演プログラムにそれぞれ掲載

観劇いただきありがとうございます。ひとつの演目を立ち上げ、完成するまでには2年ほどかかりますので、その間にコンサートを開いたり、ミニ公演だったり、完成報告だったり、いろいろな発表ができて、思い出の多い芸術館公演です。舞台と客席が近いので一体出来ることもこの会場の楽しみで、息子も「ウン 今度は大学だね」と我が舞台とばかりはりきっております。張り切りすぎが少し問題ですが……。配役も新しい役に挑戦しようと話し合い、みんな自信が付いてきたので、オーデションでは活発な意欲が見られ、「この役ならやってみよう」「あの人に出来るのなら私も出来る」など、個人の成長が表れ、とても嬉しく楽しいです。

「二回目の公演」

25回卒 田口雅之

ぼくは、村人をやりたかったので、とてもうれしいです。ボトルダンスもがんばります。

田口みどり

2度目の『屋根の上のヴァイオリン弾き』という事で、気持ちを新たにしての公演です。息子は念願の村人を演じる事になり、とてもうれしい様子です。又、まさかボトルダンスが踊れるなんて……。夢の又夢と思っていたのでしょうか。張り切って練習に通っています。今回は二つも夢がかなったのですから、頑張って本番で演じてほしいと思います。

25回卒 木村智子

『屋根の上のヴァイオリン弾き』の一回目の時は、坪上さんと二人で“ホーデル”の役をしました。長いホウキを持って三人娘で並んで歌ったことがなつかしいです。おとなりの姉妹の声にどうしても、つられてしまっていて困りました。今年は二幕目の“ホーデル”役になりソロで歌うのでよかったと思いました。でも坪上さんから歌がとってもむずかしかつたと聞いていた通り、なかなか声が出ません。こんどは、また別の曲も工藤先生と一緒に歌うことになって、上手に歌えなかったらどうしようと心配で今からドキドキしています。一生懸命に歌おうと思っています。

木村希代子

前々回のミュージカルの練習で“こんど工藤先生とデュエットすることになった”と言って大喜びで帰ってきました。前回の練習日は別な行事と重なっていたのですが先生と歌の練習がしたいからと午後から参加、張り切っています。いろいろなことがあって練習時間も少ないなか、そんな大切な役を上手にできるか親は不安でいっぱいです。

「イエンテ」になって

25回卒 近藤さと子

私は、こんど「イエンテ」の役をやってみたいと思いました。村人のときよりセリフもたくさんあってむつかしいけど、がんばります。

近藤和子

自信がないことは絶対に自分から手をあげてしようとしないう娘が、「イエンテ」をやりたいと云ったとのことびっくりしました。先生が「やってみたら」と声をかけて下さったことがうれしかったのかもしれない。今までは集団で動いて、後ろの方にかくれるようにして、一言のセリフを云うのも緊張していました。今度は一人で動いて相手の顔を見ながら、セリフを云わなければならないのです。どんな「イエンテ」になるのでしょうか。さと子なりの演技が出来れば良いと思っています。本人は練習を一度も休まず、張り切っております。親としては半分楽しみ、半分心配しながら見ることになるでしょう。

『屋根の上のヴァイオリン弾き』への思い

27回卒 上田 徹

前の時は、ロシア兵でした。今回は、村人の役です。セリフの出だしが、前よりも、うまくなってきました。そして、ボトルダンスを、踊ります。ボトルを、落とさないようにします。ダンスがうまくなるように、練習をがんばります。

上田恭子

ミュージカルの練習日、玄関で「それでは、行ってきます。お弁当は、オリジンで、買って行きます。お母さんは、休んでいても、いいです。一人で、行きます」と言って出かけます。今回初めて、私が不参加の

ため、毎回練習は大丈夫かと、気掛かりでした。しかし、この言葉を聞き、気持ちが大変楽になりました。「歌」、「芝居」、「踊り」が一体となった若竹ミュージカルの私達の熱い思いが、観客の皆様方に伝わるよう願っています。

「ミュージカル大好き」

27 回卒 小野寺邦江

私は歌が大好きです。ミュージカルに入ってよかったです。『屋根の上のヴァイオリン弾き』は2回目です。私は村人で出ます。ダンスも踊ります。「乾杯の歌」や「陽はのぼりまたしずむ」の歌が大好きです。今日も一生懸命歌います。去年ここで『サウンドオブミュージック』をして、ひつじになって踊りました。一緒にかわいい赤ちゃんひつじになって踊ったゆりちゃんが天国へ行ってしまいました。とてもさびしいです。でも今日も、きっとミュージカルが好きだったゆりちゃんは舞台上で踊ったり歌ったりしていると思います。私も頑張ります。今日もたくさんのお客さんに見てもらいたいです。

「ミュージカル活動に感謝」

小野寺恵江

1 回目の「屋根の上」の頃精神的障害のある娘は不安定になり殆ど練習に参加出来ない状態でした。親子で苦しい日々を過していましたが、いつも歌が慰め癒してくれました。もしこの活動がなかったら日々どんな過ごし方をしていたのかしら？親子で暗い顔をしてにらめっこをしていたのかも知れないと思うと、ミュージカルは私達親子にはなくてはならない宝物になっていました。今は練習日が私の一番の楽しみになっています。皆様の温かさ優しさにこの上ない喜びを感じています。（皆様にも一度練習を見て頂きたいと思う程良い雰囲気です）こんな素晴らしい環境の中に置いて頂ける事は本当に有難いと思います。苦しい時悲しい時、ミュージカルの方々から励まされ支えられ勇気を頂いて続けて来られました。そしてこれからも続けていけることを願って居ります。総ての方々感謝申し上げます。

「今日も一緒に」

近藤由紀子

由里の人生を華やかに彩ってくれた若竹ミュージカル。この活動に参加出来たことは、由里にとっても、又残された私にとっても幸せな事でした。この大切な活動を無くしてはいけないという思いが強くなって、卒業生から元気を貰い先生方やお母さん達に支えていただきながら、少しずつ練習に参加出来るようになりました。今回の舞台は、どんな思いで務める事になるのでしょうか。怖い気がしています。この芸術館の舞台は、一番多く出演した所です。今日も由里は舞台上で、この芸術館の中を我がもの顔で、楽しんでいくことだろうと思います。

「ごあいさつ」

27 回卒 鈴木真奈

皆さま、今日は若竹ミュージカルの公演を観に来て下さりまして、誠に嬉しく思っています。私は、今回、ゴールドの役をすることにオーディションで決まりました。この役を一生懸命、頑張っただけで演じますので、ぜひご覧下さい。皆様の健康と幸せを祈っています。

「娘と共に演じる」

鈴木文雄

6 年前に病没した家内と娘が、皆様のお仲間に入れて頂き、ミュージカルの練習を始めてから、約 13 年が経過致しました。最初の頃は、仕事に忙殺された日々のため、私自身、全く関心を払っていませんでした。家内の病状が進み、娘を連れて練習へ参加することが困難となり、自然とその役割を私が担うようになりました。練習場や公演の受付のお手伝いをしたり、練習風景を見学している中に、お母さん達や指導者の先生がたから誘われ、とうとう練習のお仲間に加えて頂くようになりました。娘は、若竹ミュージカルの練習に参加して、多くの友人に囲まれて楽しく、生き生きと練習に励んでいます。私は、バックコーラスやダンスに参加させて頂き、時には、村人の一人として短いセリフを語ります。娘の生き生きとした練習を見てみると、自分の年齢を忘れて、もう一頑張りしようかと元気が湧いてきます。子供達の一生懸命の舞台をどうか、ご覧になって下さい。

「村人でがんばります」

27 回卒 盛生正子

☆私はミュージカルが大好きです。

☆お友達やお母さんと一緒に練習や本番に出られてうれしいです。

☆今度又村人をやります。

☆作業所のお友達や指導員もみにきてくれるのでたくさん練習をしてがんばります。そして作業所の仕事もいっぱいがんばります。

「若竹ミュージカルは私達親子の生きがい」

盛生桂子

言語の障害を持った正子と共に出演できるこのミュージカルは、私達の親子の生活の一部として、楽しみ生きがいである。今回の村人役は2回目です。親子そろって村人として出演することになり家でもビデオをみては、練習に励んでおります。親子共通の話題、楽しみは我が家の「宝物」です。今年も元気で出演できる喜びと幸せをかみしめています。15年前にこのミュージカルに出会いすばらしい環境の中で、温かい先生方のご指導、すてきなオーケストラの方々との出会い、家族達の協力、多くの支援者達に支えられ励まされ、一つのストーリーを作りあげていく醍醐味を味わわせていただいております。出会いと継続は力なりです。又みにきて下さる方々にこの感動をお伝えできたらまさに「この子らを世の光に」となる事を祈りつつ、願っております。これからもいろいろな役に挑戦し親子共々すてきな女優を目指して夢は大きくブロードウェイへ。たった一度の人生、親子そろって輝いて生きてゆきたいと思ひます。今はただただすべてに感謝です。

「しきたり」と「かみさま」

30 回卒 伊藤公一

僕は「しきたり」の終わりの笑うところと結婚式の場面の終わりの「かみさま」のひとつがうまくいきません。広井先生が「だめ！」と言われて、長崎で行った「ちんもく」（『沈黙』遠藤周作の小説）の司祭様の気持ちでいのだと教えてくれました。大きな声で『神様』と呼びかけちゃってはだめです。その気持ちになろうとしているのに声を出すと、だめです。むずかしいです。笑うところと「かみさま」を毎日練習してい

ます。

「安息日の祈り」に想うこと

伊藤敬子

37年前。節分の宵は家中の戸を開け放ち、義父は大きな声で「鬼は外、福は内」と豆をまいたものです。それに応じるようにあちこちの家からも、一家の主と子供の豆をまく声が賑やかに聞こえてきました。豆撒きの声が全く聞かれなくなってどれほどの長い時間が経ちましたことか？豆殻と柗の枝に鯛の頭をさし、香ばしい炒り豆を焙炉で作りながら、家族の幸せと一年間の無病息災を願った伝統的行事も時代と共に形を変えてきています。日々のニュースで「親や子供を手にかける悲惨な事件」を聞くにつけ、宗教的な制約や戒めなどを持つことの少ない私達は、せめて節目の行事を家族で祝い、食事を共にして家族の絆を深めることが、いたわりやお互いの立場を理解する縁となるのではないかと思いつつ「安息日の祈り」の歌詞に込められたユダヤの人々の、親としての愛情と民族の尊厳に感慨を深めるのです。

「ボトルダンスをかってよく！」

30 回卒 清野友規

僕は、今度もボトルダンスをおどります。前より上手に“かってよく”おどりたいです。家でも音楽をかけて一生懸命練習しています。ひざをまげて、おどるところが、むずかしいです。でも、曲のリズムに合わせておどれると、とっても、気持ちがいいです。

「味わい深い舞台を！」

清野三千子

『屋根の上のヴァイオリン弾き』への再挑戦、今回はハイライト版ですが、それぞれ今迄と異なった配役に取り組みました。練習では相変わらず熱が入り、演じる人によって、同じ人物でもこんなに味が異なるのか！と新しい発見に感慨を深めた日々でした。一方、私達、保護者は以前と同じ村人を演じます。でも、新しく構成されたダンスに取り組みました。少しでも素敵にリズムに乗って、皆と一緒に躍動感を表現したいと心掛けても、時折、ワンテンポ遅れる自分に気付きドキッと、今度は、足が反対方向に行ったり、本番はどうなりますか？ちょっと心配です。基本に戻り、

シッカリと楽譜を見直して正確に音をとることを念頭に練習した歌はグレードアップしていると良いですが・・・。兎に角、本日の舞台は、きっと以前とは、又、別の味わい深いものになると信じています。そんな全員の姿をご覧頂ければ幸いです。ご来場頂きまして、本当に有難うございました。本日は以前の公演とは異なった味わいの私達全員の姿を、ご覧頂き、そして、お楽しみ頂けましたら幸いです。

31回卒 相磯岳史

ヴァイオリン弾きが大好きになりました。この役で初めて、ヴァイオリンを手に持つことができたことも、うれしいです。ヴァイオリン弾きを頑張ります。

相磯君絵

2回目だから、しっかり自分の役に集中して頑張らしましょう。息子は今年もヴァイオリン弾きの役をさせてもらって、とても喜んでます。本当はヴァイオリンを手にすることさえ、夢なのに！！役で弾くマネでも手に持てる喜びを、彼は感じているようです。そんな姿を側でみてハラハラしながら、見守る親バカです。

「ロシア人をやります」

31回卒 小島 諭

「しきたり」の歌のとき、「こんにちは！」と元気にあいさつをします。アナテフカ村のロシア人とユダヤ人は友だちになって一緒にダンスを踊ります。結婚式のときは、テーブルをひっくり返します。ぼくは、あばれるのはイヤです。おしばいだから、あべれます。

『屋根の上のヴァイオリン弾き』再演にあたって

小島訓子

若竹ミュージカルでは再演の時は、前とは違う役に挑戦というチャンスを受けます。前はユダヤ教のラビ様で、今回はロシア人役をする息子に「あなたの役のロシア人は、本当はユダヤの人たちを憎んではないよ。友だちになりたいから“♪ To Life”と一緒に踊ったのだよ。本当はやりたくなかったけど、命令には従わなければいけないから、テーブル

をひっくり返してたりして嫌がらせをするんだよ」と教えました。ユダヤ人とロシア人その両方の立場を理解することが出来たかどうかはまだ不明です。一方私は、前回は大汗をかきながら裏方をやり、裏を支える事の大切さ大変さを体験しました。今回私は村人の役で出演します。「肝っ玉の大きな陽気なユダヤのおっかさん」と自分の役をイメージしています。音楽監督の広井先生から「ハードルを高くするよ」と言われています。さて、このハードルを落とさず、飛び越えることができるでしょうか？乞うご期待！！

『屋根の上のヴァイオリン弾き』

31回卒 坂井智明

私はパーチックの役をやっています。ホーデルと一緒にウエディングのおどりをしています。私は歌をうたいます。とても楽しみです。

『屋根の上のヴァイオリン弾き』の再演

坂井照子

『屋根の上のヴァイオリン弾き』初演の時、私はこの難しいミュージカルがどのように仕上がるのかしらと期待と不安がありました。しかし良く、演じ切ったものだとつくづく感じておりました。再演にあたり、今、思い起こせば気持ちがいっぱいだった楽しい衣装、小道具作りでありました。ちょっとした小さな所に若竹ミュージカルらしい言葉をしのばせた小道具を作っている時は、一人でフッと笑いがこぼれました。楽しい思い出が沢山つまっています。意味深い内容のこのミュージカル。この度も皆で力を合わせ、最高に出来上がるよう祈る気持ちでいます。

31回卒 藤江真二郎

みんなががんばっているからロシア人をしっかりやろうとおもいます。

うたをあわせないとだめです。もうれんしゅうしなくてならない。

藤江もと子

今回の『屋根の上のヴァイオリン弾き』では配役を一新しました。新しい気持ちでみんなが取り組んでいる中で、一向に変わらないのが私たちアナテフ

カ村のおっかさん達、衣装も顔ぶれも又一緒。もともとおっかさんの日常なんて“掃除洗濯食事の世話”と変わり映えしないもの。でも“時は移って”います。今までとはひと味もふた味も深まったおふくろの味をご期待下さい。

「いつもありがとう」

31 回卒 小林美保

『屋根の上のヴァイオリン弾き』は、村人で頑張ります。皆さん今日は観に来てありがとうございます。ごゆっくりとお楽しみください。

「健康で参加を」

小林春江

卒業のその年に発足されたミュージカルにお世話になり早いもので15年が経ちました。素晴らしい先生（指導者）や仲間達に恵まれて活力を与えられ月2回の練習日に休むことなく参加してきた娘です。何より健康で参加出来ることは大変嬉しいです。『屋根の上のヴァイオリン弾き』は、数年前には静岡公演もありました。地方公演も楽しみの一つです。お手伝いは「無理なく出来る人が出来る時に」の言葉に甘え、私は少しばかりのお手伝いしか出来ませんが楽しみは大きいです。出演者の演技力の凄さに目を見張り耳を澄まし驚きを感じる事が多々あります。今日も素晴らしいミュージカルを披露してください。

31 回卒 谷山いづみ

『屋根の上のヴァイオリン弾き』で、私は村人の役をやります。踊りもかっこよく見えるように、みんな練習をしています。楽しいです。

谷山洋子

『屋根の上のヴァイオリン弾き』を再演することになりましたが、前回の公演の時は、練習しながらも、内容が難しいので、どうなるのかと心配でした。しかし、テヴィエ一家のことを理解しようと一生懸命に練習した結果、公演が終わってみれば、みんな落ち着いていて、良く出来たので感動しました。その時の気持ちを思い出しながら、更に深くテヴィエ一家の気持ちを考えながら舞台に立ちたいと思っています。

ます。

「ぼくとミュージカル」

32 回卒 栗山和宏

『屋根の上のヴァイオリン弾き』は今回は2回目です。1回目はパーチックで学生役でした。楽しかったです。今回はテヴィエ役で牛乳屋です。だいたいな役です。2回目なのでセリフとダンスをいっぱい練習して頑張りたいです。

「感謝」

栗山和枝

私は体調が悪く、公演を観客として見学させて頂いています。公演を重ねるごとに全員の方が本当に上手になっていて、毎回感動しています。又、子供たちの成長を実感しています。親子共々困難を乗り越え、充実した日々を送ってこれたのも、ミュージカルの一員だった事。改めて感謝しています。

2 回目「屋根の上～」

32 回卒 小林憲治

前回、酒屋の主人“モールチャ”をがんばりました。今回も村人、2回目のボトルダンスをしっかりと踊れるようにがんばります。

「まけないで力づよく」

32 回卒 河西美保子

1回目のときは4女のシュプリンツェでしたが、こんどは村人になります。セリフがひとつになったけど、大きなこえで力づよくいます。まけないきもちをだしたいです。

けっこんしきのばめんでは、チャバになっておどります。たのしくおどれるようにがんばります。じょうずにやりたいです。

再び『屋根の上のヴァイオリン弾き』と向き合って

河西正子

『屋根の上のヴァイオリン弾き』を再演することが決まってとても懐かしいしみじみしたのを感じました。暖かくて、親しみやすく、家族思いで頑固な“テヴィエ”の大きな愛情に包まれ幸せな気持ちになれる気がします。不安をぬぐえなかった初演と

のちがいです。初めて取り組んだ時最初に受けた印象は、難しい、暗い、なじみがないなどなどでした。ビデオを観、舞台を観にいき、シャガール展にも足を運び、ユダヤ教やキリスト教の本をあれこれ読んで、自分でも意外な程興味がわき身近な物語になりました。再演とは心のありようが初演とはちがひ、表現の仕方も出来映えもレベルアップが要求されます。今回はハイライト版ですが、少しでも前作より良いものになるように、気持ちを込めて演じたいと思います。最後の“アナテフカ”は、とても難しい曲だと今回改めて思いました。そこに込められた村人たちの深い思いが表現できたらうれしいです。

『屋根の上のヴァイオリン弾き』

34回卒 鈴樹勝子・裕一

何回目の公演になるのだろうか……。前回とちがひ役も又がらりと変わる。大丈夫だろうか……。少し不安であるが本人は平気な顔をしている。できるか！できないか！そんなことではない様だ。何でもすると云うところでしょうか。問題はないのか……。親の方がいつも心配している。今回はボトルダンスを踊ると云うが、あの足であの腹で、え……。！と思わずうなったが本人はやるきである。うまいとか、ヘタとかではない楽しく本人が一番楽しんでミュージカルに参加出来ればいいと思う。ただいつもじょうずに台詞も踊りも出来れば最高だと……。

『屋根の上のヴァイオリン弾き』再演

34回卒 上林やよい

前回の『屋根の上のヴァイオリン弾き』公演ではお母さん役を演じましたが、今回の舞台では娘役を演じます。娘役になりきって、歌やダンスを頑張ります。それから、私にとってミュージカルの卒業生の仲間やオーケストラや先生方、支援者の人々は大切な仲間です。私はミュージカルに入って10年目になりました。今ではそこが私の大切な居場所です。練習の日には、オケや卒業生の仲間に会えるのが楽しみで、普段の疲れやいやな事を忘れられるからです。これからも続けて頑張りますので、よろしく願いいたします。

「また、がんばります」

35回卒 春日貴代志

前の公演の時は、ロシア人と村人でした。今回は村人と花婿の役をします。ダンスと歌、また、がんばりたいと思っています。

35回卒 白川優子

私は『屋根の上のヴァイオリン弾き』は2回目です。前の時も、村人でした。でもセリフが少しちがひます。後ろにならんでダンスのうごきもちがいます。ダンスをおぼえたりならび順もおぼえるのに苦労しました。いつも練習の時、仲間に会えるのがたのしいです。

白川博子

私も村人で、2回目です。歌詞をすっかり忘れているのです。ボケ防止に、がんばります。

36回卒 行友宏文

がんばります。楽しいです。

「宏文とミュージカル」

行友喜代子

宏文が、ミュージカルに入れて戴いて、早や3回目の秋を迎えました。どうしても入りたいとの強い希望で、入れて戴いたミュージカル。テレビで、大好きな野球がある日も、「帰ってからね」と自分に言い聞かせて出かけていく練習の日。今は、あたり前のようにりましたが、最初の頃は、あまりにきれいに切り替えていく宏文に、今までのことを思うと、こんなこともできるのだとびっくりしたものです。好きなことに会えるということは、こういうことなのだと改めてご縁というものを思いました。今は『屋根の上のヴァイオリン弾き』の練習に励んでいます。新しい役に戸惑っていたようですが、前回公演のDVDを見せて戴いたり、厳しい？弟との練習を繰り返す中、少しずつではありますが、セリフが頭に入ってきたのかなと思う現在です。さて本番はどうなりますか。そのことを思いますと、今からドキドキの私です。どうぞよろしく願い申し上げます。

これからの『屋根の上のヴァイオリン弾き』

39回卒 戸田尚幸

『屋根の上のヴァイオリン弾き』は今年になって難しくなりました。私は今年ダンスがしたいのでロシア人の役に挑戦してロシアのコサックダンスをがんばります。これからもっと新しくなるのでがんばりたいと思います。この『屋根の上のヴァイオリン弾き』でユダヤ人もロシア人もダンスが大好きなのでお互いの民族がちがっても楽しく踊る所が印象深いですね。ダンスの力で戦争を無くす事が出来たらいいなと思います。

「ひとつの舞台ごとに・・・」

戸田玲子

私たちが大切にしている演目のひとつ、『屋根の上のヴァイオリン弾き』を再演できることになり、とてもうれしいです。新しい配役を頂いてみんな少しでもその役柄に近づこうと悩みながらがんばってきました。でも、その作品を知れば知るほど「今度はこうしてみたら?」「やっぱりそこは違うんじゃないか…」とイメージが広がっていきます。今度の舞台ではどんなアナテフカ村が生まれるのかドキドキしながら練習をしてきました。どうぞ新しいアナテフカ村にお遊びにいらしてください。心からお待ちしています。

2度目の『屋根の上のヴァイオリン弾き』

39回卒 佐藤佳代

今回で2度目の『屋根の上のヴァイオリン弾き』のコンサートをする事になりました。先輩や先生方に教えてもらい、頑張っています。衣装のお母さん方も私達の為に素敵な衣装を作って下さいました。私は今回、チャバと村人を演じる事になりました。前回以上に練習の成果をお客さんに見てもらえるように頑張ります。コンサート成功させます。

『屋根の上のヴァイオリン弾き』の再演

佐藤順子

今回再び『屋根の上のヴァイオリン弾き』を上演することになりました。子供がミュージカルに入会して最初に挑戦した演目で、心新たにになりました。前回以上に情熱を持って、一つずつの演技に対し大

切に心を込めて歌や演技をすることを望みます。最後にはアナテフカ村の人々やテヴィエの家族もばらばらになるのですが、きっと未来には幸せになることを祈ります。私達の子供が生を受けてどん底に落とされてきましたが、今ではミュージカルで友情を作り、有意義な人生を過ごし幸せに暮らしているように。

「何を課題に?」

39回卒 清水志保子・美恵子

『屋根の上のヴァイオリン弾き』は入団して初めての演目でした。その時の課題は舞台を楽しむこと、ミュージカルを楽しいものと思えたらいいなという気持ちでした。どうやらそれはクリアできて、体を躍らせ笑顔で村人の役を務めることができました。さあ、今回はどんなことが志保子には必要なのでしょう。結婚式のシーンで花嫁役なのですから、考えるまでもなく「観客のほうを向いて静かに立つこと」でしょうか。簡単なようで難しい課題です。大好きな先輩やお母様たちのほうを向かず前を向いて、なおかつ1,2度は花婿さんのほうを見て、見つめ合ってくれたら最高なんですけど。そして、ダンス。いただいたDVDを見ながら、練習していますが、相手が母親なので心躍るとはいかないのか、志保子のテンションはいまひとつです。でも笑顔で楽しそうに踊ってくれることを願って、しつこくして嫌がられない程度に練習をしています。母親の私は、今回初めて台詞があります。たった一言なのに、難しいのです。先輩たちいわく、私にぴったりの台詞なんだそうですが、タイミングが難しく、練習では何度も抜けてしまっています。神経を集中させなければと思っていますが、改めて、卒業生たちのすごさを感じています。

41回卒 長田翔平・母

「若竹ミュージカル」には前回『屋根の上のヴァイオリン弾き』大学の芸術館ホールの公演から所属しています。人と関ることが得意ではないし、シャイな上になにかの役を演じ表現するとなると・・・気がかりなことは諸々ありましたが、本人なりの所属意識となんとか自分なりに見よう見真似でやろうとする姿が随所に見て取れます。恵まれた環境の中で

上質の刺激を受け、持ち味が生かされ、緩やかに可能性が広がっていきます。

今回の公演に臨むにあたり、決して言葉にはしませんが、繰り返し全幕公演のビデオを観ているようすから本人の心の内が伝わってきます。

45回卒 戸谷さほ

若竹ミュージカル、たのしいです。よろしくおねがいします。がんばります。

戸谷好秀

どうしてこんなことになったのか。今からでもよいから、やめた方がよいのではないか。無理、困難、大変、恐怖、逃避、七難八苦。子どものお陰で、新しい別の人生、初舞台です。



若竹ミュージカルオーケストラ

トランペット 赤澤 秀行

私がトランペットを吹きはじめて27年目になります。その間に若竹ミュージカルに関わるようになってはや、16年になろうとしています。もう、半分以上がいつのまにかたちました。舞台の人たちは回を重ねる毎に成長をしていて、とてもうらやましく思います。自分自身も回を重ねる毎に成長をしていきたいと思います。屋根の上のヴァイオリン弾きは二回目の取り組みなので私がそれぞれ、屋根の上のヴァイオリン弾きにならないようにがんばります。

ホルン 飯島 友香里

若竹ミュージカルに初めて参加したのが、『屋根

の上のヴァイオリン弾き』です。そのときは、こんなに長く若竹ミュージカルとお付き合いが続くとは思いませんでした。一度でも若竹の世界に触れると、離れがたい魅力があるのだと思います。キャストやメンバーも前回とは変わり、今回はまた新たな気持ちで『屋根の上のヴァイオリン弾き』に臨みたいと思います。

コントラバス 井上 理紗

私が若竹に参加させてもらったのは、ちょうど3年前の小金井祭公演です。ずっとサウンドオブミュージックをやっていたので、屋根の上のヴァイオリンをやるのは初めてです。いつも公演のたびに、とても温かい気持ちになります。舞台の皆さんと、お客さんと心が一つになるような気がしています。これこそが本当の感動なのだと思います。今日も、会場にいる皆さんとこの感動を味わえたら幸せです。

コントラバス 大串 清文

『屋根の上のヴァイオリン弾き』は、コントラバスにとってはピッツィカートで音を出す（弦を指で弾いて音を出す）曲目、小節が多いミュージカルです。「しきたり」での力強い音に始まり、「陽は昇りまた沈む」の結婚式での祈りに満ちた音、「アナテフカ」での切ない思いと不安、そして未来への願いを込めた響き・・・同じピッツィカートでも、その音に込められた響きは様々です。そんな様々な音を記した楽譜、ブロードウェイで演奏されているオーケストラのパート譜と、一度は諦めかけていたものの出会えたのは2002年。その時の苦労も今となっては感慨深い思い出です。

ヴァイオリン 大串 千代

若竹の演目は、どれも「想い・重い」テーマを持っていると思います。多分、15年前と比べれば、その「想い・重み」をより感じるができるようになったと思っています。自身が歳を重ねていくに連れ、それまでの経験を生かせれば・・・と思うのですが、なかなか私自身、個で演奏に反映させることは難しく感じています。そのもどかしさの中、観にいらしてくださった皆様、ミュージカルとスタッフとオー

ケストラとが力を出し合うことで、何倍もの力を生み出す魅力が支えとなり、個の僅かな力ながらも参加させていただいています。

ファゴット 佐藤 寛治

私が初めて若竹ミュージカルに参加させていただいた時もこの演目でした。静岡公演にも参加させていただきましたがキャストの皆さんもいい味出してるなぁ！という印象を受けました。今回はキャストिंगもがらっと変わりますが是非、皆さんの個性を出して頑張ってくださいね。

フルート 佐藤 玲子

『屋根の上のヴァイオリン弾き』。今回は2回目の公演ですが、私自身は初めて取り組んでいます。

題材は少し難しいですが、「伝統」と「新しいこと」がぶつかり合うことは、生活の中のさまざまな場面であるのだと思います。そして、『結婚』にもそれが色濃く出てくるのでしょうか。私も年頃なので(笑)、そのようなテーマを実感し、考えさせられながら演奏しています。異国の曲の雰囲気もこの作品の魅力と感じています。雰囲気を大切にしたいと思いますので、聞いてくださいね。

チェロ 島田 栄子

今回は久しぶりの『屋根の上のヴァイオリン弾き』の公演です。前回この演目をやった時と比べ、オーケストラのメンバーにも新しい顔がたくさん増えました。新しいメンバーが加わった新しい若竹オーケストラで、また新たな『屋根の上のヴァイオリン弾き』を作っていくことになります。今まで何回も演奏しているこの演目ですが、私自身もまた新たな発見をしつつ、新たな気持ちで取り組んでいます。全幕公演を目指して、若竹ミュージカル一丸となって頑張っていきたいと思います。

トロンボーン・アコーディオン 谷口 良二

若竹ミュージカルオーケストラは、団員を募集中です！興味をもたれた方は、是非参加を。募集パートは・・・全部です。このオケは、伴奏オケです。公演だけでなく、舞台との練習で、舞台のメンバーが実力を発揮できるよう、しっかり演奏することが

主な活動です。舞台の年間を通しての活動と同様に活動しています。ただ、人員不足のため、十分な練習及び伴奏ができないことが多いのが現状です。やはり、伴奏オケとしては、伴奏という役割を果たして、初めてその価値が認められますので、是非多くの方に参加していただき、どの練習でも伴奏の音が抜けないようにしていく構成を目指したいと思っています。若竹ミュージカルは、公演ではありません。是非メンバーとしてご覧下さい♪

クラリネット 鳴瀬 潤、絵理、蓮花

娘蓮花、3歳になりました。もちろん『屋根の上のヴァイオリン弾き』初参加です。車の中では、CDをかけると歌の練習をしています。ただ、CDが英語版なので、"TRADITHION"は一丁前に「とらでいしょ〜ん♪」と歌いますが・・・。合奏の時も、私たちの間に座席を確保しミュージカルを鑑賞。きっと、野望はあのミュージカルの舞台に立つことなのでしょう。また、最近は「らっぱがいい」とも言っています。トランペットがいいのかな？と思っています。たら、どうやら「らっぱ＝くらりねっと」らしい。3人並んでクラリネットを吹く日はそう遠くないかも。

ヴァイオリン 淵本 晶子

昨年『屋根の上のヴァイオリン弾き』をやると決まってから、挑戦の連続でした。前回とは違うパートへの挑戦、ソロへの挑戦・・・私自身が目標を持つてがんばることで、よりいっそうこの作品に対する思いが強くなったような気がします。今日は私にとって忘れられない公演になりそうです。舞台のみなさんとも気持ちを一つに、がんばります！

ヴァイオリン 宮崎 瑠美

初めて若竹ミュージカルに参加した5年前の公演の演目が、『屋根の上のヴァイオリン弾き』でした。楽譜を追うのに必死でしたが、役者さんの演技に心を動かされました。5年後の本日も、役者さんに負けないくらい、楽しんで演奏したいと思います。

ヴァイオリン 森永 佳代

今回久しぶりの『屋根の上のヴァイオリン弾き』

の公演です。民族や宗教、伝統などの難しいテーマを扱っているこのミュージカル。練習を重ねるごとにアナテフカ村の人々の想いを強く感じるようになり、セリフや歌に胸をうたれます。

若竹ミュージカルの舞台は、本当に本当にたくさんの人々が心を込めてつくっています。見に来て下さった方々にその気持ちが伝わり、会場のみなさんの心が一つになるような、すてきな公演にしたいと思っています。

パーカッション(ティンパニー) 矢浪 陽子

前回、屋根の上のヴァイオリン弾きが演目だったときは、満員の芸術館の後ろの方で、一観客として立って見ていました。感動するとともに「ああ、また若竹ミュージカルに参加したい」と思いながら……。いま一員としてこの場において、一緒に演奏できることが嬉しいです。一瞬一瞬を大切に、心を込めて演奏したいと思います。

チェロ 鷺頭 まり子

6年前初めて若竹に出会った時は、車椅子の娘と客席にいました。演目は今回と同じ『屋根の上のヴァイオリン弾き』でした。それまでアマもプロもいろいろ聴いてきましたが、若竹の公演は衝撃でした。自分が障害児の母だからなのか？とも思いましたが、どうも違うらしい。次の年からはオケピットにちゃっかり潜入し、若竹の一員として公演のときだけでなく練習のたび一年中、若竹の愛のあふれる音楽に癒され、感動を受け続け、お蔭様で育児ストレスに負けず元気に暮らしております。そして近頃もう一つ増えた若竹での楽しみは、練習に小さな2世たちが顔を見せること。なんとも微笑ましく、益々愛があふれます。



支援者

安東 恵美

今回の『屋根の上のヴァイオリン弾き』では、振り付けのあるダンスに挑戦です。1ヶ月に2回の練習で振り付けを覚えるのは至難の業です。練習で覚えた振り付けが、次の練習までの2週間の期間を経ると、ちょうどきれいに忘れてしまうことになる気が付きました。ダンスの振り付けを考えるにあたり、振り付けを簡単にし、自分で覚えて自分で表現すること、人と呼吸を合わせることなど村人たちのふれあいを大事にしたいと振り付けを見直してみました。いよいよ本番です。村人たちのいきいきとダンスを見てください。

再演にあたって

大野 優子

思えば、「屋根上」初演の年は、兄が結婚した年でした。舞台上「日は昇り、また沈む」を歌いながら、結婚式で見た母の涙がしきりに浮かんだのをおぼえています。そして、今年、再演の年。兄夫婦に第二子が誕生しました。先日産まれたばかりの孫を抱きながら、にたにたしている父を見て、そういえば、テヴィエも長女ツァイテルの子を抱く場面があったなあ、なんて思いました。テヴィエ一家の物語のように、我が家の物語も少しずつつむがれているのを感じました。今年から始まる新しい「屋根上」も、また違った思いでつくっていくことができると思います。

音楽に乗ることの素敵さ

加藤 富美子

ミュージカルの一番の楽しさは、やはり素敵な音楽に乗りながら物語が進んでいくことです。歌やダンスはもちろんのこと、舞台上で椅子に座っているだけの場面でも、音楽を感じそれに心を動かしている表現は、観る人の心を打ちます。今回の公演でも、多くの場面で卒業生たちのこうした表現にふれることができることでしょう。

立山 直子

若竹ミュージカルに参加するようになって初めて取

り組んだのが、前回の『屋根の上のヴァイオリン弾き』でした。「この難しい曲をどうやって…」と、6年前は譜面を追うだけで精一杯でしたが、今回新たに向き合うと、楽譜から見えてくることが多くあります。自然体でオーケストラの音をイメージできるような、そんなピアノ伴奏が出来たらと心がけています。そのためには日頃の基礎練習を欠かさないように…、集中力を保てるよう体調の管理もちゃんとして…と、小さな過程を大切にしながら、一緒にいいミュージカルが出来よう励んでいきたいと思っています。

"若竹村"の村人になって

橋本 明子

5年前、2003年11月の小金井祭。それは私の若竹ミュージカル初舞台でした。そしてその時の演目が…、『屋根の上のヴァイオリン弾き』だったので。この作品、物語の舞台は"アナテフカ村"ですが、若竹ミュージカル演じるアナテフカ村は、言わば"若竹村"!!私も若竹村の一員になって早5年です。前回よりも村に溶け込んだ、かわいい村娘(!?) (^v^)として演じようと思います♪

「ミュージカルって素晴らしい」

福井 滉

ミュージカルには3つの要素が組み合わされています。基本になる芝居があって、それに歌が入り、踊りが入って、それらが互いにからみ合って1つの大きな作品が出来上がります。若竹ミュージカルのメンバーはそれぞれ得意な分野と苦手な分野を持ち合わせていますが、芝居か歌か踊りのどこかで、彼らは持てる力を生かすことができます。そして、忘れてはならないのが、若竹ミュージカルオーケストラによる音楽です。この音楽のおかげでミュージカル全体がミュージカルらしい雰囲気になります。いや～ミュージカルって素晴らしい!

「平面栗(シイナ)」

福井 晴美

時折、鴨や白鷺の姿も在る、自生イタドリの密生した黒目川を渡ると特別支援学校です。校庭のサクラ、ヤマボウシ、エゴ、ムクゲの花木たちも咲く時

を忘れず美しく開花します。この秋、舞台衣装を納めている倉庫横のクリの実も、例年の如く、たわわに実りました。イガの中を観察すると栗、平面栗(シイナ)、栗の順で3個の実が並んでいるのがわかります。中心のシイナは両サイドの丸々と育った勝ち栗?に圧迫され成長を自ら断念したのか、萎んだ姿の存在自体がなんともフシギです。「シイナは勝ち栗に負けた?それとも故意に譲った?」、愚問を承知の問いかけに、ある卒業生のお母様が快活に笑顔で答えてくれました。「シイナは快く譲ったのだと思う。それにそのことに充分、満足していると思う。まるでワタシ(お母様自身)みたい(笑)」にと。そういえば、愛情深い?シイナにだけ、いつまでも色あせないという自然の摂理に反する力が秘められているようだ。そんなフシギな生態を持つシイナに思いを馳せつつ、いつしか私もシイナになれるかな?とっていました。

三輪 禎子

2回目の『屋根の上のヴァイオリン弾き』。ハイライト版とは言え、キャストも入れ替わり、思いもそれぞれに変化があり、新生版ができたと思う。それだけに長く携わっている者としては、新鮮な思いで作品に取り組んできた。それでも変わらないものは、作品への思い(テーマ)であろう。20代から50代までの卒業生、そしてその親たちが願う自立、愛し合うということ、家族や仲間の絆そのどれも大切にしてきた。どれだけ皆さんに伝わるか楽しみでもある。

山本 正子

再び『屋根の上のヴァイオリン弾き』を上演するにあたり、みんな新しい役にチャレンジすることになりました。今回の「屋根上」再演では、若竹オーケストラの谷口さんがアコーディオンにチャレンジするというので・・・、では私は舞台に上って(衣装に身を包んで役者?、黒の上下で裏方?)と、新しいことにチャレンジしようかと考えています。今回の小金井祭は、まだ舞台の下でオーケストラの一員です。さて次の公演では、アナテフカの村人が黒子で、舞台にのれるのでしょうか。

若竹ミュージカルの沿革

1993. 7 東京学芸大学教育学部附属養護学校
開校40周年記念若竹ミュージカル 発足
1993. 8.1 第1回オリエンテーション
演目決定 『サウンド・オブ・ミュージック』
1994. 1.15 ラジオジャパンにて1月9日の練習風景放送
1.16 若竹会新年会にて、歌を披露
1.22 東久留米市にぎやかカーニバル出演 (於 東久留米市中央公民館)
1994. 6.15 開校40周年記念式典行事参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
8.6～7 合宿練習 (於 養護学校)
10.16 若竹まつりにて『サウンド・オブ・ミュージック』上演
11.3 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『サウンド・オブ・ミュージック』公演
東京学芸大学管弦楽団と共演
(NHK ニュース及び「NHK こどもの療育相談」に取りあげられる)
- 12.1 東久留米市にぎやかカーニバル出演 (於 東久留米市中央公民館)
1995. 6 若竹ミュージカルを上演する会発足
9 9月より正嘉昭先生から演技指導を受ける
11.2 福祉文化学会主催福祉文化総大会参加 (於 横浜ラポール)
12.1 座談会—ミュージカルが「癒す」もの— (演劇と教育 1996年3月号掲載)
12.9 東久留米市にぎやかカーニバル出演 (於 東久留米市中央公民館)
1996. 3 演目を『ウェスト・サイド・ストーリー』に決定
4 東京学芸大学管弦楽団OB・OG及び現役の有志により
ウェストサイドストーリーオーケストラ編成
指揮者に広井隆先生を迎える
8.3～4 オーケストラとの合宿練習 (於 養護学校)
10 若竹まつりの若竹おどりにて歌と踊りを披露
11.3 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『ウェスト・サイド・ストーリー』コンサート
ウェストサイドストーリーオーケストラと共演
1997. 1 広報紙GO2ブロードウェイ発刊 (2008年10月現在151号)
1997. 5 オーケストラとの交流会 (於 奥多摩)
1997. 8.9～10 オーケストラとの合同合宿練習 (於 養護学校)
ウェストサイドストーリーオーケストラを
若竹ミュージカルオーケストラと改称
舞台監督に宮上直也氏 (故人) を迎える
10.11 『ウェスト・サイド・ストーリー』公演 (於 三鷹市公会堂)
11.2 小金井祭 (東京学芸大学学園祭) 参加 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『ウェスト・サイド・ストーリー』公演
11.23 '97山の都ふれあいコンサート参加 (於 山梨県民文化ホール)
『ウェスト・サイド・ストーリー』公演
1998. 5.3 オーケストラとの交流会 (於 養護学校)
6.14 日本発達障害学会33回研究大会特別公演 (於 東京学芸大学芸術館ホール)
『ウェスト・サイド・ストーリー』コンサート
8.8～9 オーケストラとの合同合宿練習 (於 養護学校)
1999. 3.7 『サウンド・オブ・ミュージック』コンサート (於 東京学芸大学芸術館ホール)
5.2 オーケストラとの交流会 (於 養護学校)
8.7～8 オーケストラとの合同合宿練習 (於 中央アルプス駒ヶ根)
2000. 1.10 東京都盲・ろう・養護学校総合文化祭「舞台芸術・演劇祭」特別出演
『サウンド・オブ・ミュージック』(第1幕より) 上演 (於 東京芸術劇場中ホール)
舞台監督に黒木辰男氏を迎える
3.5 『サウンド・オブ・ミュージック』(第1幕より) 公演
(於 所沢市民文化センター・ミューズ)

- 8.19～20 オーケストラとの合同合宿練習（於 養護学校）
 10.9 『サウンド・オブ・ミュージック』 全幕公演
 （於 所沢市民文化センター・ミューズ）
 11.5 小金井祭（東京学芸大学学園祭）参加（於 東京学芸大学芸術館ホール）
 『サウンド・オブ・ミュージック』 全幕公演
- 2001.1 次回演目を『屋根の上のヴァイオリン弾き』に決定
 5.4 『サウンド・オブ・ミュージック』 全幕公演
 （於 リューとびあ新潟市民芸術文化会館・劇場）
- 8.11～12 オーケストラとの合宿練習（於 養護学校）
 11.3 若竹ミュージカル映像制作部による「ドキュメント新潟公演」完成
 11.4 小金井祭（東京学芸大学学園祭）参加（於 東京学芸大学芸術館ホール）
 「ドキュメント新潟公演」上映会&出演者と語る会
- 2002 8.10～11 オーケストラとの合同合宿練習（於 養護学校）
 11.3 小金井祭（東京学芸大学学園祭）参加（於 東京学芸大学芸術館ホール）
 『屋根の上のヴァイオリン弾き』コンサート
- 2003 8.9～10 集中練習（於 養護学校、ルネこだいら）
 11.2 小金井祭（東京学芸大学学園祭）参加（於 東京学芸大学芸術館ホール）
 『屋根の上のヴァイオリン弾き』第一幕より
- 2004 1.10 若竹会「新年会・成人式」にて、『屋根の上のヴァイオリン弾き』から一部を披露
 （於：成美教育文化会館 グリーンホール）
 3.28 「しずおかおもちゃ図書館開館 20 周年記念」コンサートに出演
 （於 静岡市民文化会館大ホール）『屋根の上のヴァイオリン弾き』全幕公演
 8.7～8 集中練習（於 養護学校）
 10.31 小金井祭（東京学芸大学学園祭）参加（於 東京学芸大学芸術館ホール）
 『屋根の上のヴァイオリン弾き』全幕公演
- 2005 1.23 広報紙 G02 ブロードウェイ 100 号発刊
 5.8 東京公演（於 武蔵野市民文化会館大ホール）
 『屋根の上のヴァイオリン弾き』全幕公演
 「僕たちのブロードウェイ」発行
 11.6 小金井祭（東京学芸大学学園祭）参加（於 東京学芸大学芸術館ホール）
 『若竹ミュージカル 12 年の軌跡』コンサート
- 2006 5.6 若竹ミュージカルコンサート東久留米公演、『僕たちのブロードウェイ』
 （於 東久留米市立中央公民館ホール）
 7.22～23 オーケストラとの合同合宿練習（於 藤野芸術の家）
 11.5 小金井祭（東京学芸大学学園祭）参加（於 東京学芸大学芸術館ホール）
 『サウンド・オブ・ミュージック』ハイライト版
- 2007 3.23 第 1 回附属学校の輪・カーニバルに参加（於 東京学芸大学芸術館ホール）
 7.14 若竹ミュージカル公演『サウンド・オブ・ミュージック』全幕（於 ルネこだいら）
 8.19 わくわくコンサート 5 周年記念公演に出演（於 長崎ブリックホール）
 『サウンド・オブ・ミュージック』全幕公演
 11.4 小金井祭（東京学芸大学学園祭）参加（於 東京学芸大学芸術館ホール）
 『サウンド・オブ・ミュージック』全幕公演
- 2008 3.22 第 2 回附属学校の輪・カーニバルに参加（於 東京学芸大学芸術館ホール）

〒 203-0004
 東京都東久留米市氷川台 1-6-1
 東京学芸大学附属特別支援学校内（電話 042-471-5274）
 若竹会
 若竹ミュージカル

若竹ミュージカル

陽は昇り また沈む

Sunrise Sunset

いつも おんぶしてた
かわいい 小さな子

いつか^{おお}大きくなった
二人^{ふたり}

こんなに きれいになって
立派^{りっぱ}になったのか
昨日^{きのう}までは 小さな子^{ちいこ}が

ひ のぼ 陽は昇り また沈み^{しず}
とき 時うつる
やがて 朝^{あさ}がくれば
はな 花もすぐ開く^{ひらく}

ひ のぼ 陽は昇り また沈み^{しず}
とき 時うつる
よろこび 悲しみ^{かな}を
のせて^{なが}流れゆく

くち だ 口には出して 言えない^い
きょう 今日^{きょう}の よろこびよ

やさしく^て手^あをとり合^あって
いつまでも

しあわせ^{ふたり}そうな二人
かたく^{むす}結^{むす}ばれて
いつの日^ひにか 私^{わたし}たちも

ひ のぼ 陽は昇り また沈み^{しず}
とき 時うつる
よろこび 悲しみ^{かな}を
のせて^{なが}流れゆく





若竹ミュージカル